



菅波 茂

世の中、だんだんと閉塞感が強まってきている。こんな時に一番怖いのは暴発することだ。なぜ閉塞感がひどくなっているのか分析する必要がある。日本人は社会のルールをよく守る社会慣習があるが、日本を発展させてきたルールに根本的な原因があるとすれば問題だ。

「人は得意技で倒れる」という。これを交えることを交革というが、日本人の最大のルールは何であったのか。それは「ポジティブリスト」である。「しもいいと決められたことを、いかに迅速に、効率よく実施するか」ということだ。ポジティブリストは未知との遭遇によって致命傷を受ける。対照的にネ

ガティブリストとは、「してはいけないということ以外は何をしても構わない」というルール。柔軟で自由な発想が要求され、未知との遭遇には強い。

相撲は四十八手で勝負を争う

とストブリティブジポ ストブリティブジポ

ポジティブリストとストブリティブジポネ

人の価値観の多様化。先行きの見えない乱世。決定的にネガティブリストの世界になりつつある。「失敗は成功の母」というのはうそである。何事も成功モデルに学ばなければならぬ。例えば「鳴子よさこい踊り」は全国の若者の踊りチームを高くに引き寄せている。「鳴子を使う。よさこい節で踊る。道路に寝てはいけない。これ以外は何でもよろしい。服の形・色、音楽の種類、踊り方、靴、帽子、派手さ、珍奇さ、地味さ。気にせずやってください」と。NGOとNPOは基本的にネガティブリストの世界である。募金、援助、活動、収益事業、広報、会員募集……。創意工夫が価値を決める。NGOとNPOの多様性は人間活性、地域活性の指標にもなるはずだ。(アジア医師連絡協議会代表、題字は筆者)